

に應じ六寸乃至八寸位のものを用ひ、之に培養土を充し冬期は温室、温床等に取
り入るゝか又は充分防寒の設備をした處に鉢共埋植するがよい、通常二三月の候
より漸次發芽し、四五月より開花する、謝花後暫くは灌水肥培等に注意し、七月
下旬より幾分乾燥に保ちてよい、而して程なく球根を掘り上げて貯藏するか又は
鉢の儘越冬せしめるのである、又秋植のものは掘り上ぐるや否や直に他に栽植し
てもよい。

繁殖法は實生及分球の二法による、實生は四月頃苗床又は播種鉢に肥土を置き
之に稍々疎く下種するのである、下種後は床地の乾濕に注意し、乾燥せは時々少
量の灌水をして、生育中二三回稀薄の腐熟人糞尿又は油粕等を施して置くならば
秋期に至り直徑六七分の種球を得らるのである。

分球法は秋期若しくは早春植代への際、母球に附着して居る子球を分離するの
である。

實生、分球何れの方法によるも、其年内即ち實生若しくは分球した翌年直ちに
開花せしむることは出来ない、更に一年間充分に肥培して其翌年乃至翌々年であ
る。

○朝顔

「あさがほに釣瓶とられてもらひみづ」とは、千代女の名吟にしてまことに此花の
眞價を發揮せるものである、朝顔はもと支那より渡來したるものであると云ひ、
或は本邦の原産にして野生草より改良したるものであると云ふ二説あり、今其何
れが正しきかを知らず、其栽培の極めて古くより行はれて居たことは明である、
品種極めて多きも之を大別すれば、普通咲と變り咲との二種とすることが出来る
普通咲は喇叭に似たる筒状花を開き、變り咲は牡丹咲、狂咲、菊咲等其變化甚だ
多い、何れも極めて色彩に富み到底一々之に附名し盡せぬ程ある、葉形も變り咲
には變化が多い。

栽培法は普通咲と變り咲とにより全く其趣を異にし、變り咲は年々系統を追ふて採種して播下し、苗の選擇培養等極めて熟練を要するが故、到底専門の培養家にあらざれば其繁殖を全ふすることは難い、之に反して普通咲は栽培極めて容易にして、殆んど特別の技術とを要せぬ。然しながら大輪の美花を開かしむるには又多少熟練を要する、故に以下素人栽培家の爲め、普通咲の栽培法につき其概要を述ぶることとする。

種子は成るべく充分結實したるものを用ひ、播種期は人により多少の差異はあれども普通八十八夜前一週間位を適期とする。

苗床は成るべく輕鬆を尙ふを以て砂土を用ひる、而して強雨等によつて流亡の虞なき様覆蓋の設備あるがよい、播種後數日にして發芽する故密生したものを間引き、本葉一二葉を發生した頃之を素焼の瓦鉢に移植する、これに用ふる土壤は總論に於て述べたる粘土の多きものを用ふるがよい、若し土壤輕鬆に過ぎるとき

は徒に莖葉を肥大ならしめ、開花を不良ならしむるものである、移植後根の固定するまでは日光の直射を避け、漸次活着するに従つて長く日光に充て、充分生育の後には出來得る限り日光に曝らすことが肝要である、而して時に或は灌水の量を控へ目にする等の處作も必要である、要するに肥料と日當りと而して灌水量との如何により着花の成績に關係するものなれば常にこれ等に充分の注意をすること

を忘れてはならぬ。
土壤乾燥するときは時々、溜水に極めて稀薄にしたる肥料を混し、根の廻りに施す。

仕立方には種々あれども、一定の方式あるにあらずして、只其人によりて趣を異にするを以て、栽培家の適宜である、要するに蔓をして自然の發育にのみ放任せず、又甚しく其生育を阻害せざる様適宜添手をするに止る、然れども蔓の伸長するを欲せざる場合には、第三の本葉を生じたる頃摘心して、常に長く伸ば

ざる様に注意せねばならぬ、斯の如く仕立つるときは自然の生育を害するを以て大に矮生として開花せしむることが出来る。

○アキメネス

多年性の珠根草にして、六月下旬頃より白色、紫色等の愛らしき花を開く、四月上旬 栽植となし成るべく日當りよき軒下或は「フレーム」中に置き、雨に曝さぬ様せねばならぬ、これ葉面に一度水滴の附着するときは、其部分より漸次腐敗枯損することあるが故である、温室に栽培する場合には冬期掘り上ぐるの必要少きも、落葉後は掘り取り置き二三月の候鉢に移すがよい。

アキメネスは其結實稍不完全の傾あるが故に、實生は困難である。

○葵

葵は本邦古來都鄙を問はず、至る所之を栽培し其種類が多い、何れも宿根草で長きは五六尺以上にも達する、幹極めて強硬で葉は粗面にして潤大である、十月

上旬 床に播下すれば翌年六月中旬より、七月に至りて開花する、花は三四寸の一重、八重の濃紅色、淡赤、白色等ありて艶麗なれども雅致に乏しき憾がある、葵の主なる種類は大凡そ左の如くである。

麝香葵、近年米國より輸入せしものにして、三月下旬播種すれば三尺内外に生育し、白色の香氣ある三四寸の花を開く、水揚げ宜しきが故切花用に適する。

立葵、八重、一重の別ありて、八重には又黒色、紅色、淡紅色等の種々ある。

何れも色彩艶麗である、而して一重の白色のものは其趣 清酒である。

「ピロイド」葵、花色殆んど眞黒にして光輝あり、恰も黒「ピロイド」に似たるより此名稱がある。

錦葵、莖葉は他のものに比して稍々よく繁茂し、數多の小枝を生じ葉は稍々圓くして滑かく、花は銅錢大にして紅色に少しく黒色の斑點を帯び、各葉腋に數花を着生する、清酒な點はあるが鮮麗前數種に及ばぬ。

種子は九月下旬乃至十月上旬苗床に播下し、一二寸に伸長した頃之を他に假植し、強寒の候には簡単な霜除けをして置けばよい、而して翌春三月頃になれば之を豫定の場所に植へ出すのである、又株の越年に付ては、其儘になし置てもよけれど、寒氣の爲に根株を害せられる虞がある場合には、成るべく温暖なる南向の所に移植し稍々深く被土して置くがよい。

肥料には腐熟堆肥、油粕、過燐酸石灰、灰、人糞尿の類を施してよい、苗床には稀薄の腐熟人糞尿、灰等を施すのである。

〇〇 アスパラガス

「アスパラガス」は多年生の害根草にして、「畑地に栽培して其嫩莖を食するものと只單に觀賞用のものとの二種ある、而して其食用のものにも觀賞用のものにも各々種々の品種がある、此ものは花よりも主に葉を賞するもので、花束や盛花の添葉として缺くべからざるものである、食用種のものも其綠色の細織な葉は何となく清涼の感があるが、殊に裝飾用種は得も云はれぬ幽雅の趣がある、裝飾用種の主なるものは「アスパラガス、ブルモーズム」、「アスパラガス、スプリングリー」、「アスパラガステニユイジムス」等で前者は最も柔軟細織である、何れも熱帯地方の原産で最も廣く世に知られて居る。

繁殖法は、實生、挿木及株分の何れでもよい、實生は春四月頃播種鉢等に下種する、「アスパラガス」の種子は頗る堅實で、露地に下種したものは三週間内外を要する程である、故に暫時微温湯に浸漬して下種するもよい、發芽後一寸位に生育せば之を小鉢に植え、根の鉢を充したる頃更に稍々大なる鉢に移すがよい。

挿木は枝を二三寸に切斷して、之を繁殖床中に挿すのである、生着すること容易である。

分株は早春鉢より抜き取り、株の大きさに應じ之を分割するので、最も容易な使用法である。

「アスパラガス」は原産地が熱帯故に、夏期は、適當の濕氣と稀薄な肥料とを施與し、稍々蔭になして置けば青々と茂るものなれども、寒氣の襲來に遭はしむれば莖葉忽ちに枯死するもの故、冬期は温室が木框内で越冬せしむるのである、尤も少しく温暖な處では室内で保護して越冬せしむることも出来る。

〇サルピヤ

「サルピヤ」は一年草にして莖葉少しく胡麻に似、花色眞赤色にして龍口の如き形狀を呈する、四月下種すれば六月下旬より秋十月の候に至るまで絶へず開花する、一莖咲き終れば更に又莖節より花莖を生し、漸次咲續くものである、盆養とするもよけれど花壇に群植するときは頗る濃麗である。

繁殖は實生で四月上旬頃より苗床に播下し、發芽後一二寸に生長したる時之を他の苗床に植る代へ、更に一二寸伸長したる時之を豫定の場所に栽植するがよひ、栽植に際しては少量の腐熟堆肥と灰とを混じて施し、生着したる後人糞尿、

硫酸「アンモニヤ」の類を施せばよい。

〇金蓮花

金蓮花は蔓性の一年若しくは越年草で、洋名を「ナスタールチウム」と稱し春秋二季に播種してよい、花は濃赤、褐赤、樺色等にして一種の奇形を呈し、葉は蓮に似て遙に小形で風姿頗る愛すべきもので、西洋にては廣く愛せられる蔓性草である。

培養法は容易にして花壇植鉢植及籬作り、等に適す、春播は四月上旬に下種し、發芽後程なく一回移植を行ひ、更に一二寸伸長して莖葉の丈夫になりたる時に本植する、本植に際して少量の肥料を與ふれば、生着後旺盛に伸長して、六月下旬より開花を初め、爾後生育しつゝ、秋霜の候に至るまで順次開花するものである、秋播は九月下旬乃至十月上旬播下し、翌年五月頃より七八月の頃まで絶へず開花する。

肥料は餘り多量に施さぬがよい、善く腐熟した堆肥の微量に灰、過燐酸或は米糠の類を混じて施せば足る。

✓○桔梗

桔梗は我邦秋の七草の一に數へられ、雅客の深く賞翫するものである、多年生の宿根草にして性强健である、如何なる土質にも適するが故到るところに野生し野草と共に秋の野を飾つて居る、栽培種は野生のものより大花である、早晩生の三種ありて更に八重と一重とに別れる、早生は丈低く中晩生は稍々長く二尺以上に達する、栽培せらるゝものは多く早生及中生種にして、六月下旬より淡紫及白色の雅致ある花を開く、野生せるものは概ね晩生にして花少しく小さい、花色稍々淡き傾がある。

桔梗の繁殖は、播種、挿芽及根分けの何れでもよい、元來野生に近きが故何れの方法も頗る容易である、播種は春秋二季何れにもよく發芽し、挿芽は夏期土用

及冬期を除く外は何時にても殆んど差支へない、根分けは晩秋又は早春の候が宜しい、桔梗の根株は其儘になし置くとときは、毎年新芽を生じ自然に開花するものなれども、餘り長年月の間同地に放植するときは、漸次衰ふるものなれば、時々移植を行ひ其都度根分けをするがよい、裁養とするよりも寧ろ花園の一隅又は籬根等に栽培し其野趣を賞するに若くはない。

レ○百合

諺に牡丹、芍薬、百合の花と稱し、百合は花の三大王の一として居る、由來我邦の風土は百合に適する故、其品種は百數十種の多きに達する、歐米諸國に於ては需用の割合に産額少く、年々我邦より澤山の輸入をして居るのである、今左に百合の品種中で主なるもの數種を擧げると。

- 一、山百合 此山百合の内にも亦種々の變種があるが、所謂山百合と稱するは白花で其花瓣に紅褐色の星を散在する、而して鱗莖疑寶珠形をなして黄色

である、莖の高さ三尺餘に達し、到るところの山野に自生して居る強健なる種類である、此種は花形頗る大にして芳香あり、七月下旬より八月下旬頃にかけて開花する、輸出用としても有望である。

一、作百合 山百合の一種で一般の形態山百合に類似して居る、花の形は豊大にして花瓣の中央に黄色の縦條があり、他に黄色の星點を散存する、莖の高さ山百合に劣らぬ大のものがある、鱗莖稍々腐敗し易き傾ありて栽培稍々困難である。

一、紅筋百合 この種も亦山百合の一種で鱗莖、莖狀花形等略山百合に類似して居る、但鱗莖は採掘して暫く置く時は追々帯紅黄色に變ずる、花瓣は白地にして中央に縦に一條の紅條がある、而して他には紅色の星點を散存する、生育少しく遅緩で栽培稍々困難である。

一、白鹿の子百合 鱗莖は高疑珠形で鱗片は廣く且つ厚い、色は帶紫紅色で莖

の高さは三尺餘りにも達する、開花のとき花瓣著るしく外方に反卷する性ある故花形割合に小さく、口径僅に三寸位である、花瓣は白色で白星の小突起を散存する、繁殖頗る困難である故に其價額常に高貴である。

一、赤鹿の子百合 鱗莖の形狀色澤等略白鹿の子に似て居るが稍暗紅紫色で濃い、性非常に強健で土質を選ぶことが少い、莖の高さは殆んど四尺にも達する位である、花の形は前のもの、通りで花瓣が赤色である、而して所々に濃赤色の星點を散在し、花瓣の周縁は白色である、七八月の頃開花する

一、丸葉鹿の子百合 鱗莖も莖の高さ等も殆んど赤鹿の子に似て居る、葉の形態頗る丸く巾が廣い、花の形狀は他の鹿の子類よりも一層大きく、外側に反卷することも少い、花の周徑一尺評りて色は濃赤である、各花瓣に濃色の星點を散在する。

一、黒軸鐵砲百合 鱗莖の形狀は鹿の子類に比し頗る華奢で倒圓錐形をなし、

鱗片の数が多く、色は稍々淡黄である、露地栽培に於ては莖の高さ二尺に充つるもの稀であるが、温室に栽培したものは三尺以上にも伸長する何れも其幹が黒いので黒軸と云ふのである、葉は披針状をなし、密に着生する花も亦数多し白色にして横乃至斜垂して開き周徑八九寸に至る、總じて鐵砲種に屬するものは花房頗る長く筒状を呈し、恰も鐵砲の筒の如くであるこれ鐵砲なる名の起る所以である、鐵砲百合中最も晩生で、一般に稍々粘氣ある壤土を好む、芳香峻烈にして輸出種中有望なるものである。

- 一、丸葉鐵砲百合 鱗莖、莖葉等黒軸に大差なし、只僅に短小なる傾がある、春葉着花の數も亦少い、故に其花は却つて大形である、中生で花は芳香に富んで居る、土地と好嫌すること黒軸等の如く甚しくない。
- 二、柳葉鐵砲百合 此百合も全體の形状畧々黒軸に類似して居るが其葉は柳葉の如く細く、稍々疎に着生する、早生にして強健なる種類である、歐米諸國

にては耶蘇復活祭までに開花せしむること容易である故に最も賞せらる。

- 一、天蓋百合 鱗莖は食用とすることを得、花は樺色にして八重と一重とあり花瓣に黒色の斑點がある、七月中旬より開花する、花形は稍々鹿の子百合に類似して外方に反卷することが少い、葉は黒軸鐵砲に似て幾分短く先端少しく尖る、此百合は各葉腋に多數の黒色なる零餘子を生じ、これより繁殖することが出来る、土質は割合に選ばぬ。

- 一、竹島百合 莖の高さ二尺五寸内外に達し、六月下旬頃黄褐色の花を開き、各花瓣には濃色の星點を散任する、着葉の工合は他の百合と其趣を異にし、莖は恰も竹の如き節あり、其節より放射状に七葉許を生ず、竹島百合は他種の如く木子を生ぜざるが故に、之を繁殖するには鱗莖を分ちて挿すか零餘子を下種する。

其他葉巾細織糸の如き糸葉百合、柳葉の如き「スゲ」百合、蝦夷透、赤、黄

姫百合の如き、葉の形丸葉煙草の如き乳母百合、花房の頗る長き長太郎百合の如き、又豊大艶美なる鳳凰閣、金獅子、紅透等の如き一々擧げて數ふることの出来ぬ程ある。

以上の如く種類の異なるに従つて其特性を異にし或は粘質の土地を愛好するものもあれば、又輕鬆の土地に適するものもある、従つて之が栽培法も各々異つて居るが一々述ぶるは繁雜である故に、茲には唯其一斑を記すこととする。

凡そ何種でも種子の必要な事は云ふまでもないが、殊に百合は病害に浸される性ある故に、栽植に際しては先づ其種球を充分選擇し、腐損の虞あるもの又は鱗片の緩みたるもの等は之を用ひぬがよい、栽植の時期は早過ぎぬ様又晩過ぎぬ様注意すること必要である、餘り早ければ年内に發芽し伸長して冬季寒さを蒙ること多く、晩きに失するときは栽植後の發育に差支へがある、殊に貯藏法の悪かりしものは貯藏中已に新根と新芽とを發生し、之を損傷すること甚しきものである

る、京濱地方に於て適當と認めらるゝ栽植期は凡そ次の如くである。

- 一、山百合 十月中旬—十一月下旬
- 一、鐵砲百合 十月下旬—十一月下旬
- 一、鹿の子百合 十月中旬—十二月中旬

其他多くの種類は大體十一月頃を標準として栽植すれば大なる誤はない、植込をなすには充分腐熟した堆肥を栽植前に施與し置き、栽植の際は種球と接觸せぬ様注意せねばならぬ、追肥としては植付後三回内外人糞尿を稍々稀薄にして施すのである、而して球根を肥大ならしめんと欲すれば、毎月開花に先ち悉く摘蓄するのである。

繁殖法は分球、實生及鱗片の挿芽であるが分球即ち木子を取つて栽植するが最も容易で又最も普通である、木子は種類によりて異なるが大抵第二年目には開花する。

○ミムラス

一年草にして四月中旬播下し、發芽後二三寸に生長したる頃鉢又は花壇に移植するのである、六月上旬より黄色に赤の斑點を裝へる稍々金魚草に似寄る美花を開く、此花瓣は一旦謝花するも中莖より刈り取れば又新芽を生じて、八月下旬頃まで絶へず開花せしめることが出来る、盆養として最もよい。

繁殖は實生、挿木共によい。

花壇等の肥料には、腐熟堆肥、灰、油粕等宜しく、盆養には腐熟油粕の水溶液を時々施すがよい。

○鼠尾萩

本邦古來培養せるものにして強健なる宿根草である、又往々山野に自生するものもある、花は紫紅色にして極めて小さく、各莖の中央より上端まで簇開し一種の趣がある、草丈け二尺乃至三尺に及び七月下旬より八月下旬に亘り絶へず開花

する地方によりでは盂蘭盆に佛前の飾花に供する、故に之を盆花ともいふ。

秋末或は早春の候餘り乾燥に失せぬところに移植し、腐熟堆肥の少量と糞尿の稀薄のものを與ふれば善く繁茂する。

○芍薬

古來牡丹と並び賞せられ常に美的形容詞として人口に膾炙するところである、強健なる多年生の宿根草にして栽培餘り困難でない、種類は頗る多きも大別して觀賞用及薬用の二種とすることが出来る、少しく乾燥する地を好み就中砂質壤土に最も適すれども夏期甚しく乾燥するときは適度の濕氣を與へねばならぬ。繁殖は實生、株分け共に行ひ得れども、實生は三ヶ年の後に非ざれば開花するに至らぬ、株分けは秋期或は早春に行ひ、移植の際は根塊を損傷せぬ様注意せねばならぬ、適當せる土地に於ては分植後三ヶ年を経れば再び株分けに適するに至る。

肥料としては冬季、春季及謝花後等二三回堆肥、人糞尿及油粕類を施せばよい

○秋海棠

多年生の草花で莖葉共に軟弱である、葉は緑色を帯びて纖毛あり、莖は恰も半透明の如くにして鮮美なる瑠璃色を呈し、温室室床等に於て能く繁茂する、又露地に於ても善く生育する、此草花は夏季餘りに強き光線に直接せしめぬ様、少しく蔭になし置くを良とし、寒中は適宜防寒の設備をするを要す、花は淡紅色にして徑五六分恰も胡蝶に似、八月頃より九月に亘り絶へず簇開する。

繁殖法は實生、挿木にする、實生は細砂交りの土を入れた播種鉢に下種する、種子頗る微細なる故普通の下種に於ける如く被土するときは發芽せぬことある故注意すべきことである、播種後濕氣を供給する爲に、如露等で散布するときは往流亡する虞ある故、細に噴霧器の類にて徐々灌水するのである、而して發芽の後には本葉一二葉の時、肥土を盛つた小鉢に植へ、根が鉢全體に充ちた頃更に稍々

大鉢に移植するか、又は花壇等に栽植する、挿木は莖を三寸位に切斷して挿芽床に挿す、生着すること容易である。

肥料として稀薄の人糞尿及油粕の腐熟水溶液等を施せばよい。

レ○ビスカリヤ

石竹科に屬する一年乃至越年草にして、花は五瓣の淡紅色及び淡紫赤色等あり鮮麗である、草丈け長きは一尺五六寸に及び莖葉纖弱なるを以て、動もすれば倒覆して亂雜を來し、花容を損し易き故粗植し支柱を與へねばならぬ。

繁殖は實生により春秋二季に下種する、秋播は翌年四五月の候春播は八月頃より開花する「ビスカリヤ」は他の石竹類に比し寒氣に堪ふる力弱き故、越年せしめるには温室若しくは温床に移さねばならぬ、尤も稍温暖な所で充分の防寒設備を施せば畑地に於ても越年せしむることが出来る。

○向日葵

二年生又は一年生にして、春秋の二季に播下することが出来る、草丈け五六尺に達し、莖頭に黄色にして直径六七寸の大輪花を開く、此種の特的な向日性特に著るしく、花面常に陽光に向ふので、これ其名の起る所以である。

繁殖は實生にして秋播は防寒の設備を施し、春三月下旬頃に至り之を花壇等に移植する、春播は發芽後一旦之を假植し四五寸に生育したる頃栽植する。

此草花は性强健なる故に、餘り深き注意を用ふることなくよく、生育、開花する、故に餘り充分の肥料を施す如きは却つて徒に伸長せしむるばかりである、栽植の際極少量の腐熟堆肥と灰、米糠等を混用し、後一回人糞尿を追肥とすれば足る。

✓ ○射 干

莖葉殆んど杜若に似たる多年生の宿根草にして頗る耐冬性に富む、八月頃花莖を長く抽出して淡紅、茶色、黄色等の六瓣より成れる美花を開く、性頗る乾燥

に堪へる。

繁殖は實生によるが一般で、結實後直に採り播するを良とする、又春秋の兩季に下種してもよい、株分けは頗る容易で秋期或は早春の候に行ふてよい。

レ○モントプレテヤ

耐冬性の球根草にして「グラジオラス」に紡糸たる葉状をなし、七月の候より降霜の頃まで赤樺色の小花を開く、東京府下に於ては姫龍星又は姫「グラジオラス」等と稱し「クラジオラス」の一種類なるが如く考ふるものもある。

栽培、繁殖共に「グラジオラス」に準してよい。

✓ ○千 日 紅

千日紅は一名千日草とも云ふ、草丈一尺五六寸に伸長し、白、黄及紅色、紫色の花を開く、形稍々球形をして鮮美である、花期長きのみならず水揚げ良好なるを以て切花としてよい。

繁殖法は實生で、春季三四月の候に下種する、下種は目的のところに直播してもよいが、成るべく一旦之を苗床に播き三四寸に生育した頃移植するがよい、花は七八月頃より十月の候に至るまで咲く、肥料として、一二回油粕、灰及硫酸「アンモニヤ」の類を與へてよい。

石竹

石竹は一年又は越年草で春夏秋の三季に下種することが出来る、莖葉全く撫子に類似し一尺内外に生長する、花は一重八重の二種あり、一重咲は又花形に大小ある、花色赤、淡紅、純白、絞り等種々色彩に富む八重咲は之を「ダイヤモンド」と稱し、前者の複瓣にして白色に暗色紅色等種々の色彩を交へ、艶麗なる草花のみに數へらるゝものである。

播種は夏土用が最もよく、春播は發育充分でなく、又秋播は翌年梅雨の期節に開化するを以て、花色を損し缺實すること困難である、獨り土用播は翌年早春よ

り開花し、梅雨期前に開花し終るが故採種にも困難でない、但し炎熱甚しき候なれば屢々乾燥に失し、發芽を誤る虞あれば、常に注意して適度に濕氣を保たしむること肝要である。

睡蝶花

丈三尺内外に達する草花で、性頗る強健である、花は夏期より秋期に亘りて開き、其狀足長き蜘蛛の如く又蝶の睡れるにも似て居る、故に我邦にては之を睡蝶花と云ひ、外國にては「スパイダープラント」と呼ぶと云ふ、謝花すれば直に莖を生じ、莖中細微の種子を結ぶ。

繁殖は實生を可とし春三四月頃苗床に下種する、發芽後數寸に伸長したるとき之を苑花に移植し、又は直接欲するところに下種してもよい、芽芽後は一二回液肥を施すがよい、然るときは速に生育して七月頃より開花する。

睡蓮

蓮花已に散り盛夏愈々暑を加へ、納涼に苦むるとき、水面僅に莖頭を抽出し、獨り其清秀を恣儘にするもの實に水草中に冠たるものである。

種類を大別して球根と薑根との二種とする、球根に屬するものは、温室又は温床内に非ざれば越冬せしむることが出来ぬ、薑根に屬するものは耐冬性あるを以て、其儘どなし越冬せしむることが出来る。

葉は圓形にして莖稍長く、且つ柔く水面に浮ぶ、花は蓮に似て小さく、淡紅淡紫、白、黄、淡樺及濃紅色等種々あり、朝八時頃より十時頃まで満開し、午後四時頃に至り凋花する、又球根に屬するもの、内にて、夜半に開花し翌朝に至りて凋落するのがある。

繁殖法としては根分け及實生にして、根分けは五六月頃移植の際、各球根又は薑根に一芽を附着せしめ分割栽植するのである、實生は播種鉢に泥土を八分目盛り、少しく乾かして稍硬くし、後濁らざる様注意して水を注ぎ其上に播種する

のである、發芽するまでは勉めて水を交換し、水苔の生せざる様注意せねばならぬ。二週間乃至三週間にして發芽する。發芽後二三寸になれば三寸鉢に一本宛移植し、漸次大形の鉢に植代へを行ふ、栽培宜きを得れば、其翌年に開花せしむることが出来る。

睡蓮は肥沃の土地を好むものなれば、栽植に用ふる土壤は豫め調製し置くがよい、其割合は主として壤土を用ひ之に少量の粘土を混する、而して多數の糞尿を注ぎて堆積し置きたるものを使用するがよい。

耐冬性弱き球根を貯藏するには、温室内に置き時々水を交換し、温度の劇變せぬ様注意せねばならぬ、否らざれば往々腐敗せしむることがある。

睡蓮の種子は、成熟するや直に水中に散亂するが故、其成熟を待ちて採種することは甚だ困難である、故に謝花後數日を経て、花莖漸く彎曲垂下するに至れる頃、之に布袋を被ひ、此中に於て莖を烈開せしめ採取するのである。

○虞美人草

罂粟科に屬する一年生又は二年生草花にして、花容極めて纖麗優雅である、重瓣のものあれども多くは單瓣にして紅、白、絞り等種々ある、葉は罂粟より小にして多少鋸齒狀を呈し、五六月の候細纖なる花梗を抽出し、各一輪を着生する繁殖は實生であつて春秋二季に下種してよい、然し春播は到底秋播に及ばぬ、秋播は大抵床播とし冬間防寒の設備をなし置き、翌春未だ盛に生育を初めざるに先ち花壇に移植する、但し此花卉は頗る移植が困難である故に、目的のところ直播して翌春に至り、間引きて其株間を適當にしるがよい。

○ゲーラルデイヤ

「ゲーラルデイヤ」は菊科に屬する一年生乃至多年生植物にして、和名を天人菊と稱す、近來到る所に之が栽培をみるに至つた、草丈一尺五寸内外に達すれば數本乃至數十本の花莖を抽出し、一花莖一輪を着生する、花の直徑二三寸内外

にして、黄色或は莖色に赤褐色の部分ある放射状の花を開く、花瓣は普通扁平なれども時に或は各瓣喇叭狀を呈するもある、南米地方の原産にして一重と八重の二種ある、花期六月より秋季に亘り切花用に適する、土質は輕鬆なる肥沃地を好み強粘土に適應せぬ、床又は直接花壇に散播するときは、容易に發芽生育し、開花せしめ得れども、一旦之を苗床に下種し、周到なる管理の下に苗を養成し、數寸に伸長したるとき、之を花壇に栽植するを便利とする。

繁殖法としては下種株分け及挿木等なれども、一般に下種及株分けに依り兩法共に春秋二季に行ふことが出来る、挿木は晩夏若しくは初秋の候、其花なき部分を切り取り細砂中に挿植するのである、挿木用細土は豫め挿木鉢に盛り、之を加熱せざる木框中に埋置する、若し光線強烈に失するときは暫時葭蓋等を被ひ又は適宜濕氣を與へ、生着するに従つて漸次取除くのである、

盆養並に花壇植の肥料としては、油粕、米糠及硫酸「アンモニヤ」の類を良と

す、切花用として畑地に栽培するものは腐熟堆肥、人糞尿及藁灰等を施與するがよい。

〇〇日々草

日日草は又の名を日々有花或は日々紅など、稱し、花は淡紅色にして毎日更新し、一旦開花を初むるや莖葉枯凋するに至るまで殆んど絶ゆることはない、これ日々草の名ある所以である、強健なる一年草にして草丈二尺に達せぬ、花壇とし又切花用として賞用せらるゝものである。

繁殖法は一に實生により、春四五月の候播種する、萌芽稍々困難なるが故、充分なる結果を得るには一旦床地に下種し、發芽して二三寸に生長したる時、之を花壇又は鉢に栽植して培養すれば、七八月の候開花するに至る、花壇又は盆養の肥料としては、油粕及灰等の稀薄溶液を施し、切花用栽培に在りては腐熟堆肥人糞尿、骨粉の類を與へるがよい。

〇糸桔梗

多年生の宿根草にして草丈二尺内外に達し、東京附近に於ては六月下旬より淡紫色の花を開く、莖葉は細織にして強靱である、花容恰も桔梗に似て小なるものである、其温雅なる風姿は他に類を求めがたい。

繁殖は根分け、實生何れにてもよいが、早春新芽を分ち移植するが最もよい、性強健なるが故、嚴寒の候と雖殆んど防寒の設備を要せぬ、此花は盆養に適せざるにはあらざれども、寧ろ花壇の一隅或は垣根の邊に栽植すると一層の風致を添へるものである。

〇ロベリヤ

矮小なる一年草なれども、温室又は温床内に於ては越年せしむることが出来る、種子は春播とすれば六七月の候より開花する、花色は濃、淡、紫色、淡紅、白等あり、何れも細小可憐にして殊に紫色の如きは、其鮮麗なること他に比肩すべき

ものが少ない、丈僅に數寸なるが故に花壇の縁植若しくは裝飾用として極めて妙性簇生を嫌はざるを以て多數を一株となし、盆養とせば莖葉の周圍殆んど花を以て被はるゝに至る、而して盛りを過ぐれば刈込みを行ひて更に新梢を發生せしむることが出来る、斯くするときには生育却つて球狀をなし、更に一層の趣致を添へ恰も植木鉢上花球を置くの觀を呈するに至る。

肥料は稀薄なる腐熟人糞尿若しくは油粕、米糖等の腐熟溶液を二十倍位に稀薄して、十日内外毎に一回施與し、刈込當時に於て生育遅緩なる場合には稍々多量

○蓮

蓮は花卉として優秀なる美花たるのみならず、料理用としても亦缺くべからざる蔬菜の一である、即ち花葉は精神的に人の眼を樂ましめ、根莖は物質的に人の營養となる、而も泥濘脚を没するの地に生いて、葉にも花にも又根莖にも些の濁

汚を止めぬこそ尊けれ。

栽植の期節は四月下旬より五月上旬で、花瓣用蔬菜用の何れを問はず、水田若しくは泥多き池等に栽植する、其方法は根莖を横にして數寸の深さに泥中に挿入し、少しく尾端を泥面に現はすやうにする、栽植して十數日を経れば恰も葉の水面に浮び上るが如きをみる、之より順次強大なる葉を生じ、七月より八月に亘り開花する、花は清麗なる單瓣の大輪にして、淡赤及白色の二種ある、黎明と共に一種の音響を發して開花し、夕に萎む。

肥料は人糞尿の如きものみにても可なれども、強剛なる生育をなさしめ、豊大なる麗花を觀んと欲せば、適宜の米糠、灰又は過磷酸石灰の少量を加用せねばならぬ、殊に近來往々窒素質肥料の過多に基因する病害發生し、栽培家を惱ますこと少からず、之が豫防として磷酸質及加里質肥料の施用は著るしき効果がある、彼の有名なる不忍池の蓮の如き、近頃大に枯凋するに至れるは市中の汚

水常に池中に流入し、窒素質の過剰を來せるが爲であると云ふことである。

○花 酢 漿

多年生の球根草にして、普通「オキザリス」の名を以て知られ、露地に在るものは七八月の頃開花する、色は黄、紅等で誠に愛らしい美花である、此花は日中に開き夕に閉ぢる、鉢植として好適せるものである。

繁殖は株分け又は實生で、何れも春秋二季に行ふことが出来る。

肥料としては善く腐熟した人糞尿、油梁等の溶液を稀薄にして施してよい。

○ペゴニヤ

「ペゴニヤ」は秋海棠科に屬する宿根 或は球根草にして種類甚だ多く、本邦にて多く栽培せらるゝものは根球「ペゴニヤ」の各種「レックスベゴニヤ」及半灌木状の種類である、莖葉花莖共に愛すべきを以て近來到るところに栽培せられ、何れの温室何處の花壇にありても、此種の花をみぬはない、殊に七八月の温室の

裝飾として球根「ペゴニヤ」の色彩は又格別である、花は種類によりて異れども、球根「ペゴニヤ」は黄、紅、淡紅、白等あり、「レックスベゴニヤ」は花よりは寧ろ葉を賞観すべきもので大なるものは一尺内外に開展する、其葉面には種々なる班紋を表し雅致に富む。

繁殖法は實播或は葉挿及芽挿法によるものにして、完全なる挿芽床を有すれば何時にても之を行ひ得れどもこれ等の設備なきときは鉢又は箱に砒砂を盛りて之に挿し、硝子板を被ひ置くのである、挿芽は其葉を成るべく球根に接したるどころより切り取り葉挿は切り取りたるものを適宜に挿入し置くのである、大抵二週間内外にして根を發生するに至る、發根せば程なく之を小形の鉢に植へ、根の鉢に充ちたる頃漸次大形の鉢に移植するのである。

下種は春期二月頃行ふを可とし、之に要する土壤は輕鬆なる細微のものをを用ふるがよい、發芽後數日にして第一回の移植を行ふのであるが、此時は尙頗る微

細であるので充分注意して行ふべきである、竹製の「ピンセット」の如きものを用ひてもよい、第一回の移植後莖葉相互接着するようになれば更に第二回の移植をする、此時は二寸の鉢に一本宛植へ込むのである、爾後肥大するに従つて漸次大形の鉢に移すこと、他と同様である。

鉢植となしてよりの管理の主なる注意は、餘り強い光線を充てぬこと即ち稍陰になし置くがよく、濕氣は多きに過ぎぬようせねばならぬ、而して大氣の流通は充分可良にすること必要である、若し濕氣過多氣通不良等の場合には、害菌の爲に損傷せられ易し。

右の如くして十月頃に至り休眠時期に接近すれば、下葉の幾分黄變するものある故に、球根種は貯藏の準備として漸次灌水を減少するのである、而して十日内外の日數にて遂に全く灌水を見合はすようにする、斯くして鉢の儘凍結の虞なき又温度の變化餘り著るしくない所に貯藏して置くがよい、然し貯藏場所の都合或

は鉢の入用な場合等には、之を堀り出して乾燥勝の土壤に埋没し貯藏するのである貯藏所より取り出して栽植する時季は三四月頃がよい。

○ヘリオトロップ

「ヘリオトロップ」は温暖を好む多年草で、五六月頃より秋期に至るまで絶へず開花する、花色は白、紫等で頗る小形である、風姿鮮麗を以て誇るに足らざれども芳香高く、花壇植として又鉢植として共によい。

繁殖法は實生、挿木何れも宜しく、實生は三四月頃輕鬆土を盛りたる鉢植花に下種し、硝子板を被び成るべく温暖なる場所に置き、適宜灌水すれば一週間で發芽する、發芽後一回他の平鉢に移植するか、又は密生のところを間引きて四五葉位迄其儘になし置き、此時一本乃至二本宛小鉢に植へ、生長するに従つて漸次鉢を大にし、三四寸伸長したとき摘心して數本の枝を發生せしめる、而して成るべく温暖なるところに置き、且つ時々稀薄の肥料と適當の濕氣とを與ふれば、忽

ち開花する様になる。

挿木は四月頃より九月頃まで、大抵之を行ふことが出来る、完全な挿木床なら勿論よいが、園地又は鉢内でも少しく日陰にして濕氣を適當にすればよい、挿木に用うるには餘り柔かに過ぎぬところがよく、長さは二三寸位にするのである。

○長命菊

一名延命菊とも稱する菊科に屬する多年性の草本で莖葉は噸と秋菊の様で多年性であるから株は甚だ大きく且つ硬くなつてゐる、葉は菊とは丸で違つて恰も紫苑の様で葉肉厚く、一株から五六本多いのは數十本の花莖を抜き出たして莖頭に黄蕊の周圍に白色單瓣の美花を開く、花容甚だ高尚であつて幾分詩的趣味を備へてゐる、故に挿花道に貴ばれ其用途も少くはない。

繁殖法としては實生と株分けの二法ありまして實生は春秋に播下し株分けは多く春發芽した時適當に株分けをして可成新らしい分かれた株を分け離して適當な

場所に移植するが宜しい、株が古くなると發芽力が非常に弱くなり従つて花も充分には開かない、故に新しい株を離しては肥培するがよい。

肥料は人糞尿とか油粕とかは勿論であるが糞灰の如きものを多くに用ゆるが必要である。

○兜菊

かぶと菊は多年性の宿根草で切花として花屋間に重用されてゐる葉は菊の如く厚く花は各花莖に着生する、花容は頗る奇形で青紫色を帯び、餘りに艶麗ではないが、ごことなしに佛花的容姿を添へてゐる、而して此花は毒草の部に屬さたて多少毒素を含んでゐると云ふことである、花は六七月の頃下方から漸次上方に伸長開花する、性宿根草であるから開花の時期を見斗らい土際から刈り、束ねて市中に出すので、翌年古株から新芽を出して開花する。

繁殖法には實生と株分けとの二法ある、實生は春秋に行ひ株分花は春發芽して

から分け離して他に移植するので矢張新しい株に仕立てるこゝが必要である、肥料は他の長命菊と略同様に行へば宜しい。

〇〇をいらん草

之れは本邦古來から栽培されてをる一種で種類には紅、白の二種類ある、近頃新しい種類で最近に輸入した大花のものが作られる様になつたが未だ一般に栽培はされてをらぬ、而しながら新種大花は花の着生する數が極めて少なく到底在來種に比べて見劣りがする、此花の盛りに在つては随分美麗である、殊に切花として尤も賞美されてをる、性多年性の宿根草であるので繁殖法として殆んど實生はしなくて大抵は株分法に據る、株分は先づ春發芽した時に可成新らしい株を分け離して移植するのである、其他は凡て長命菊と同様に取扱へば宜しい。

第四章 秋の花

〇萩

多年生の灌木にして、鼠尾萩、仙臺萩、夏萩、駒止萩等の品種がある、花は白淡紅、淡紫色等種々あり、極めて小形にして枝又は葉腋の各部に、連綿として無數に着生する、状態頗る風致に富む故に秋の七草の一として雅客の最も賞翫するものである、又花期長く且つ撓み易きが故に挿花としても亦貴ばる、性極めて強盛で各地の山野に自生するが故、晩秋の候根株を掘採り栽植し置けば翌秋直に開花する。

肥料として腐熟堆肥、灰、人糞尿の類を施してよい

〇女郎花

多年生の宿根草にして、亦七草の一に數へられ、草丈四尺内外に達し、莖頭に白色の小花を無數に簇開する、状態頗る優雅にして一種の風致を具へて居る、本邦到るところの山野に自生して秋野を飾つて居る、採つて花壇植となすもよく又

盆養とするもよい、殊に矮小に仕立て、萩等と混植盆養とすれば最も妙である。繁殖法としては株分及實生である、株分けは晩秋或は早春の候、掘り取りたる根株を分割して栽植すべく、實生は春期苗床に下種し、一年間培養して後之を随意のところに栽植してよい。

肥料は餘り多く施すを要せぬ、米糠、灰、人糞尿等の少量を施せばよい、

○カツコアザミ

英名を「アセラタム」と稱し、一年草にして草丈一尺五寸許に達する、七八月の頃より恰も牡丹刷毛に似たる淡紫色及淡紅色等の花を開く、花期頗る長く花壇植に適する。

繁殖法は實生及挿木にして、實生は春彼岸頃苗床に下種し、二三寸に生育したる頃花壇其他に栽植する、又挿木床に於て挿木するときは、能く發根し速に開花するに至る。

肥料として稀薄の液肥を二三回施してよい。

○段 菊

一年草にして春彼岸頃下種する、草丈一尺五寸乃至二尺に生長し、早きは八月上旬より晚きは九月の初めより、各莖節に紫又は白色の小さき花を數段に簇開する、葉は菊に似て莖は一種の香氣を有し、切花として賞用せらる。繁殖法は實生で一旦苗床に播下し、發芽後一回假植し、四五寸位に生長した時之を花壇等に栽植してよい。

肥料としては二三回稀薄の人尿糞、油粕溶液等を施してよひ。

○月 華 香

多年生の球根草にして、一重八重の二種ある、八月乃至九月の候に至り、高く花梗を抽出し雲白純潔なる麗花を簇開する、開花は夕景にして芳香を放つ、故に歐米諸國に於ては夜會の裝飾として愛觀せらる。

繁殖法は株分けにして、謝花後九月下旬若しくは十月月上旬に掘り取り、株を分割して過剰の湿氣を除き、暖所に貯藏し五月上旬頃移植する、鉢植、花壇植何れにも好適する。

肥料は稀薄の液肥を時々施してよひ。

レ○鶏頭

種類極めて多く、其内最も世人に識られたるは玉鶏頭、鎗鶏頭、葉鶏頭、筆鶏頭、房鶏頭等である、此中葉鶏頭を除くの外は皆其莖頂に花を頂く、其色濃紅、黄、赤等種々ある、花形は品種により各異なるが最も普通なるは鶏冠に似たるものである、葉鶏頭は又十洋錦等と稱し、花として観るべきあらざれど葉の色彩變化に富む又一種觀賞に値するものである。

栽培は何れも極めて容易である、春彼岸頃苗床に播種し、四五寸に生育したる頃花壇又は鉢に移植する。

肥料は少量の腐熟堆肥、人糞等でよいが、葉莖頭の如く盛に繁茂する性あるものは、これ等窒素分に富んだ肥料を扣へて、米糠、灰、過磷酸等のものを増すがよい。

√○コスモス

頗る強壯なる一年草にして、土地を好嫌することなく、丈一丈以上に達する、葉は細織で花は淡紅、白及淡紫紅色等種々ある、何れも極めて清酒美麗にして、清秀なる秋色に最も適當したる草花である。

繁殖は實生による、春四月頃苗床に下種し發芽後三四寸に生育したる頃之を目的の處に栽植する、此草花は花壇植として常に餘りに肥大なるの憾あり、故に肥料は成るべく少量にし、殊に窒素成分の過用を避けねばならぬ。

此草花を盆養となさんとするものは、花壇植と同じく其草勢餘りに強盛なることなり、故に將に花蕾を生せんとする頃乃至僅に花蕾を發現したる頃、六七寸の

長さに切斷し其先端を挿木とすること行はる、これは六七寸の植木鉢に十數本を挿木するものにして、恰も寄植の如くなすものである、斯くするとき僅に一尺内外にして開花するものである、斯様にしたものは肥料として油粕の腐熟水溶液を稀薄として、時々施給してよひ。

○菊

菊は往古より我國に於て盛に栽培せられ、國華として珍重措かざるものである其起原に就ては二説あり或は支那より渡來せるものなりと云ひ又本邦往時より野生せしものなりと云ふ、其何れが信なるかは今遽に斷定することは出來ぬ、抑も菊の栽培法たるや皆其人によりて自任するところありて、妄に他を非難して徒に自己の方法を秘するが如き傾向ありて、何れが最も適當なるやは數年比較栽培を行ひたる上ならでは到底判明せざるも、要するに生育並に開花の優秀なるを以て本領となすものなれば、特に一家庭の栽培法に拘泥するの必要を認めぬのであ

る、故に茲には著者が實驗と實地家の所説とを斟酌取捨し、單に生育を全ふし、大輪優美なる花を開かしむるに適當なる方法の一斑を述べるに止むる。

菊の繁殖は、實生、挿芽及根分けの三法がある、實生及挿芽は稍々困難であるが根分けは甚だ容易で最も普通に行はるゝ方法である。

實生は春彼岸より八十八夜頃までに、輕鬆土に下種し薄く被土して置けば二週間内外にして發芽する、發芽は稍々困難なれども發芽後の生育は良好なるものである、而して四五寸に生長したる頃、瓦鉢に又豫め用意し置きたる花壇に移植すればよい。

挿芽法は母木の新芽を二三寸に摘み取り、適當に濕潤せる砂土に挿し込み、日光の直射せざる様數日間簾の類を以て、其上面を覆ひ置くのである、然るときは二十日許にして新根を發生し、盛に伸長を初めるに至る、斯くの如くに至れば程なく瓦鉢又は花壇等に移植するのである。

根分けは一般に行はるゝ方法であるが、これに亦二法ある、一つは晩秋謝花後莖葉枯死したる頃、之を掘り取り、其新芽と母根より切り離し、豫め用意し置きたる床に移植し、霜被を施して置く、床は土塊を篩別けし細微土に少量の砂を混和し、短冊形となしたるものか便利である、今一法は晩秋謝花後鉢植及花壇植の別なく、新苗新芽共翌年三月初旬若しくは中旬頃迄其儘になし置き、新芽の盛に生育し三四寸に至りたる頃、根分けして一旦假植し、充分發根せしめたる後花壇又は瓦鉢等に移植するのである。

此栽培に用ふる土壤は、豫め腐熟せしめたる塵埃及粘土質土壤（俗に山砂と唱ふるものなり）とを四と六との割合に混和し、干錮又は餅粕を土壤一立坪に對し、一ペタ内外及過磷酸石灰六七百匁を能く混合し、數日間放置したるもの適當である、又追肥としては腐熟人糞尿の稀薄なもの、又は油粕の浸出したるものを二三回施すがよい。

仕立法に至りては、一莖一輪とするあり、又一幹千輪を持つ誇るありて一様でないが、大輪は一株より數本乃至十數本を出し、一莖一花を着生せしむるは普通に行はるるところである。

○ アゲラタム

一年性の草花で土地は稍乾燥せる場所に適し、葉は小さくして縮み、花は大豆大の球状をなした淡紫色の愛らしい花で、各莖頭に無數に着生する、此種に蔓状を呈するのと又矮性のとの二種ある、種子は春晩くに播種して少しく生育した頃一旦假植し更に生長したなら、幻芽を切り取り砂床に挿芽法によつて多くの苗を作るべく、秋花壇植として最も適する。

後庭草花栽培終

大正六年五月八日印刷
大正六年五月十一日發行

草花栽培

定價金五拾錢

著者 清水美泉
著者 梅邑凌冬

發行者 東京中澁谷町二百四十三番地
發行者 小林直太郎

印刷者 東京市京橋區本八丁堀四丁目五番地
印刷者 椿市太郎



發行所

東京中澁谷町二百四十三番地
東文堂

大賣捌

東京市神田區表神保町二
東京堂

振替東京(七八六四番)電話芝五二九四番

◎園藝輸入協會通則

第一條 本協會ハ園藝輸入協會ト名ク
本協會ノ事務所ヲ東京府下世田ヶ谷三宿 錦北
園内ニ置ク

第二條 本協會ハ海外園藝業者ト特約シ其輸入ナシタル
植物ヲ培養シ内地ニ園藝趣味ノ普及發達ヲ計ル
ヲ目的トス

第四條 本協會ハ海外園藝事業ノ情況及其價格標準等ヲ
報道センガ爲メニ協會報ヲ發刊シ此レヲ弘ク同
好ノ士ヘ配付ス

第五條 本協會ハ園藝業者及娛樂園藝家ノ爲ニ質問部ヲ
設ケ栽培及海外通信輸入輸出買賣等ニ關スル事
項ノ裨補ヲナシ傍ヲ通信販賣ヲナス

東京府下世田ヶ谷三宿百十一

園藝輸入協會

電話世田ヶ谷三五番

協會報御請求次第無代贈呈仕候

責任幹事 彩花園 石光眞俊
同 嬌花園 神谷直彦
同 吉田菜園 吉田欽次郎
同 賞花園 永井正
同 宇園 小林進
常務理事 八正園 木村重孝

農學士 今村猛雄先生著 六版發賣

二坪養鶏

菊版二百頁
挿畫五十餘圖
定價六十錢
郵税八錢

——(寸地を利用して得る養鶏法)——
(興味と利益とを)

軒家や家庭の寸地を利用して、養鶏の利益と興味とを得やうとせらるゝ方々の爲
めにとて出版したもので、是から實行して見やうと思はるゝ方と現に實行してゐ
る方とに是非一讀を御奨め致します、總ふりかなつきの讀み易き文で實際上指針
となる良書であります。

發行所 東京中澁谷町 東文堂
振替東京七八六四番

三越花部 松長 龜夫 著

(最新刊)

カーネーションの作り方

四六版百廿餘頁
口繪三色刷入
定價金廿五錢
郵税 四錢

期待せられたる本書は漸くにして出でたり。著者が花に關する通俗的書物の著述を企圖してより數年、こゝに其の大體を稿したれば先づ第一冊を發表せる事とせり。栽培の詳細なるは勿論、來歴、種類の正確なる記述は大に學界に誇るに足るべく、専門家唯一の參考書たるは言を俟たざる所にして、然も趣味を基礎とし、最も進歩せる口語文を以て丁寧親切に記載したるものなれば初心者と雖も一讀直ちに栽培に従事するを得べきは本書の特徴とせる所なり。乞ふ渴仰せられたる本書の眞價を見よ。

發行所

東京中澁谷町
振替東京七八六四番

東文堂

農學士 今村猛雄先生著

誰にも
作れる

野菜畑

全一冊菊判洋裝
紙數三百七十頁
挿畫百廿種
定價金壹圓
送料十二錢

▼種蒔きの季節に此書の出版は正に早天に雨と同様です。此書は各種の野菜と畑全般との説明に區別し、野菜類は性質、品種、氣候、土質、栽培法、採種、病蟲害、促成法、軟化法、貯藏法、料理法等に分ち、總ふり假名の讀み易く解り易き文で書かれたるもの故、素人の方も專業の人も共に御愛讀の上、御利用下さる。

發行所

東京中澁谷町
振替東京七八六四番

東文堂

飛が如く賣れる

奥野他見先生著 冊版 おへその宙返り 定價四十錢 郵税四錢

十四版 諷刺諧談 先生様と生徒 定價四十錢 郵税四錢

七版 初旅の凸ちやん 定價四十錢 郵税四錢

再版 蛸のあたま 新刊 定價七十錢 郵税四錢

發行所 中澁谷 振替東京七八六四 東文堂書店

大評判の奥野他見先生著

農學士今村猛雄著

實驗 小鳥の飼方

全一冊 口書三色版二枚 挿畫十數種 四六刊上製金六十錢 郵税金六錢

愛らしき小鳥、麗はしき小鳥、御婦人方や、お小供衆にもよいお慰み、何處の家庭でも愛物なる小音楽家、目白、金絲雀、鶯、山雀、飼ひ易いものから始めて御覽なさい、是程楽しい事はありません、此本には何誰にもわかる様にそして面白く、色々の鳥の飼ひ方が書いてあります、小鳥飼養大流行の折柄、よく此本にある秘傳を施して、そちこちに催さるゝ會に出して一等の優れた鳥をおこしらひなさい

發行所 東京中澁谷町 二百四十三番地 東文堂

東文堂發行書目

著者	書名	定價	郵稅
文學博士 遠藤隆吉先生 文學士 本村了一先生著	版四 努力と修養	五五	六
タゴ 三浦 蘭造 先生詩集	版四 伽陀の捧物	四〇	六
小林 進 先生譯作	戯曲郵便局	三〇	四
農學士 那須皓先生譯	訂増 國民高等學校と農民文明	二二〇	八
塚本與三郎先生著	子供第三教育論	六〇	六
農學士 居初寛二郎先生著	賜天覽 現代之ブラジル	二〇〇	一
農學士 渡邊得四郎先生著	用實 農業便覽	六〇	六

ポケット形横組クロス装訂



361
71

終